無聖

第90号

◆「退任にあたり」　会長　千 田　祥 幹 …… 2
◆東日本大震災慰霊行脚…… 3
◆第28回チャリティバザー開催報告 …… 4
◆傾聴行茶活動「仏一息」活動報告…… 5
◆滴禅会講伝会報告…… 6
◆令和6年度移動研修報告 …… 7
◆青年会員をたずねて④…… 8
◆令和6年度会員大会報告 …… 9
◆第49回曹洞宗東北地方集会「山形大会」 …… 9
◆サンタピアップみやぎボランティア会　… 10
◆令和6年度第28期年次総会…… 12
◆第29期宮城県曹洞宗青年会三役 …… 12
◆今後の予定…… 12

会長挨拶

退任にあたり

第28期会長 洞雲寺 副住職　千田祥幹

令和五年四月に第二十八期宮曹青会長を拝命して以来、早いもので二年の月日が経ち、この度任期満了を迎えることとなりました。この間、会員皆様をはじめ県内ご寺院様におかれましては当会に対し格別のご厚情を賜りましたこと、衷心より厚く感謝申し上げます。

昨年一月には能登半島地震、また東北でも甚大な豪雨災害が発生いたしました。当会におきましても、微力ながら各復旧支援活動に加担させていただきましたが、この先に待つ復興への道が長く険しいものとなりますことは、東日本大震災の経験からも明らかです。今もなお厳しい環境にさらされている方が数多くいらっしゃることを思う時、被災地の早期復旧と被災者皆様の安寧を心より願わずにはいられません。

さて、今期は「同行同修～共に学び 共に行ずる～」をスローガンとしスタートを切りました。顧みれば、コロナ禍で思うように活動することができなかった高橋前会長、神作前々会長の想いを背負おうと意気込む中で発足した二十八期は、光陰に追われつつ一心不乱に駆け抜けた、あっという間の二年間だったように思います。

任期中、特に注力したことは、若い世代の会員に世間から我々宗侶が求められている役割、そして寺院の持つ多様な可能性を発見し伝えることでした。〝寺離れ〟の風潮に対し、創意を凝らして果敢に立ち向かう講師先生をお呼びした研修の開催、更には当会報において「青年会員をたずねて」と題し、四回にわたり様々な活動に挑戦する青年僧侶を特集する記事を掲載しました。

また、従来の活動と並行し、今期新しく始めた試みがSNS（インスタグラムとフェイスブック）による情報発信でした。我々青年僧侶の日常と当会の活動について、時代に即した形でより広く知っていただくことを狙いとして始めたものでしたが、お陰様で多くのフォローを頂き、世代・地域・職種を問わず様々な方とご縁を結ぶことができました。（令和七年三月時点インスタグラムフォロワー四百四十人）

投稿を目にした方から「素晴らしい活動ですね」というメッセージを頂戴したことは励みとなり、また宗派問わず同年代の僧侶の多彩な投稿を目にすることは大変刺激ともなりました。更にイベント等の告知は勿論、災害時においては他団体との連絡連携等に大きな役割を果たすことができたことは特筆すべき点でありました。

当会が主管するサンタピアップみやぎボランティア会についても、泉区セルバ、藤崎百貨店でのカンボジアフェアに加え、多くの団体様のイベントにブースを出店し、我々の活動を広くPRすることができました。そして昨年三月には実に六年ぶりとなるカンボジアスタディーツアーが実現され、皆様方からお寄せいただいた六年分の想いを現地に届けることができました。新校舎を前に喜びに目を輝かせる児童たち、それを温かく見守る保護者や現地の方々の姿はサンタピアップの活動の原点を回顧するものとなり、細くとも長く継続していくことの大切さを感じさせられるものでした。今後も支援の輪を広げるべく、更なる皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

昨年ご縁を頂いた滴禅会様と共同で開催しました研修会の際、講師を務められた井上義臣老師の言葉に、

「普段何気なく行じていることであっても、改めてその意味を考えることが大事だ」

とのご教示がありました。二十代の頃から携わり続けた宮曹青ではありましたが、初めて会長として数々の事業に向き合う度、そこに込められた知見工夫の深さや重みに改めて気付かされました。長きにわたり宮曹青に注がれてきた諸先輩老師の情熱とご労苦に万謝の念を禁じ得ません。

浅学菲才ながら、五十年を超えるこの宮曹青の歴史の一端を担わせていただけたことはかけがえのない経験であり私の誇りです。共に過ごした皆様が支えて下さいました。今私が抱く言葉に言い尽くし得ない想いがこの先も宮曹青の歴史を紡いでいく次の世代へと伝わってほしいと切に願います。

結びに、正会員・賛助会員・特別会員の皆様、更には大切なお弟子様を当会の活動のために送り出して下さいました各御寺院、御家庭の皆様のお陰様をもちまして第二十八期はここまで辿り着くことができました。至らぬ点、ご迷惑をおかけした点は数え切れず、慙愧の念は尽きません。これから宮曹青は第二十九期へと受け継がれますが、県内ご寺院様、ご寺族様には今後とも変わらぬご法愛、ご指導を賜りますようお願い申し上げ、退任にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

東日本大震災 慰霊行脚

今年で十四年目を迎えた鎮魂の日、晴天に恵まれたなか、慰霊行脚当日を迎えました。今年も、ご遺族はじめ多くの方々にご参列・ご焼香いただき、旧大川小学校震災遺構では、ご参列の皆さまと共に黙祷を捧げ、慰霊法要を地元御寺院様はじめ多くの僧侶の皆さまと一緒に修行いたしました。

癒えることのないこころの傷を負ったご遺族の皆さまと同じ時間を生きる県内宗侶として、「同行同修」同じ想いをもって、これからも日々勤めてまいりたいと改めて感じた次第であります。東日本大震災被災物故者の安らかなる眠りと、ご遺族・被災地皆さまの安寧をお祈りしてまいります。

最後になりましたが、慰霊行脚開催にあたり多大なるご協力を賜りました、第十二教区海蔵庵御住職佐竹泰生老師はじめ関係者の皆さま、またご随喜いただきました皆さまに心より感謝を申し上げます。

（庶務　伊串光仙）

海蔵庵本院様にて

観音寺様にて

釜谷霊園にて

龍谷院様にて

第二十八回 カンボジア教育支援チャリティバザー開催報告

令和六年九月六日（金）美里町トレーニングセンターにて、二十八回目となるカンボジア教育支援チャリティバザーを開催いたしました。今回も県内の御寺院様には多くの物品をご提供いただきありがとうございました。会場教区として快くお引き受けいただきました第十教区青年会の皆様をはじめ、御寺院様、寺族会様、協力団体様のご理解とご協力のおかげで、無事にバザーを開催することができました。皆さまの地道な広報活動のおかげで、当日は二百五十名を超える多くの方々にご来場いただき、すぐに完売となる商品もあり、大盛況でした。

昨年の三月には、六年ぶりに開催されたカンボジアスタディツアーに参加し、実際に現地の子供たちと交流しました。都市部は急速に発展をしている一方で、農村部に向かうとインフラの整備も進んでおらず、地域格差を感じました。日本と比べ、教育環境も整っていませんが、その様な環境下でも笑顔に溢れ、一生懸命に学ぶ姿に、子供たちの未来のために支援したいという気持ちをより一層強くしました。サンタピアップみやぎボランティア会のブースも設置し、クラフト商品などの販売も行いました。こちらにも多くの方にお立ち寄りいただきました。また、昨年の元日に発生しました能登半島地震への募金箱も設置いたしました。ご来場者の皆様には、カンボジアへの教育支援、そして能登半島地震への支援にご理解いただき、商品購入、募金をいただき大変ありがとうございました。

今年度も今期宮曹青のスローガン「同行同修」の思いのもと、皆で準備を重ねてまいりました。微力ながら、私たちのこの活動がカンボジアの子どもたちの笑顔につながっていると信じております。今回のバザーにご協力いただきました関係者の皆様、ご来場いただいた皆様に深く感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

（ボランティア委員長 佐藤泰澄）

第28回 カンボジア教育支援チャリティーバザー 報告書

■**来場者総数**：259名　■**販売商品数**：3,045点
■**総売り上げ**：1,025,200円　※売上金は、全額サンタピアップみやぎボランティア会へ寄付
■**会 場 募 金**：34,670円（サンタピアップみやぎボランティア会）
：21,410円（能登半島地震）
■**サンタピブース売上金**：23,360円

傾聴行茶活動『仏一息（ほっとひといき）』活動報告

コロナ禍前以来、久しぶりとなる傾聴行茶活動「仏一息（ほっとひといき）」を令和六年七月二十八日(日)、南三陸町公営中央復興住宅にて行いました。当日は時折小雨が降る中での開催でしたが、子供たちを中心に沢山の方にご来場いただきました。今回は自治会が主体となって準備をしていただき、私たちはかき氷、わたあめ、数珠作りコーナー、バルーンアートを担当しました。来場された皆様は楽しい時間を過ごされていたようでした。以前から行われていた恒例の流しそうめんは、コロナウィルス感染症対策のため中止し、小分けにして配食しました。　食後には子供たちにスイカ割りを楽しんでもらい、賑やかで笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。帰り際、自治会長さんから子供たちへ『来年もまた開催したいですか？』との問いかけに『はーい』と大きな返事が返ってきました。その光景を目のあたりにして、今後もできる範囲内ではありますが、引き続きサポートしていきたいと思いました。

大人の方からは震災発生当時のことや、こちらの復興住宅に移り住むまでにあった困難についてお聞きしました。改めて、被災県の青年会として、まだ癒えない思いを抱えていらっしゃる方々のため、地域の子供たちのために活動することの意義を考える機会となりました。ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

（ボランティア委員長　佐藤泰澄）

滴禅会講伝会報告

令和六年十一月二十八日・二十九日の二日間に渡り、第二十一教区洞雲寺様とホテルニュー水戸屋様を会場に滴禅会講伝会が開催されました。滴禅会とは故杉本俊龍老師が研究された法式作法・室内住職学について広く宗侶に知って頂こうと組織された会であり、この度宮城県での講伝会を当会と共催させていただけるというご縁に恵まれました。当日は全国から参集された滴禅会会員、宮曹青正会員の計六十二名という多くの方の参加により盛会となりました。

一日目は会場となる洞雲寺様の本堂において、故杉本俊龍老師報恩諷経、並びに開講諷経を挙げさせていただきました。その後洞雲寺住職千田幹雄老師より、洞雲寺様の歴史変遷についてのお話を交えたご挨拶をいただき、いよいよ開講と相成りました。花井寺住職井上義臣老師による講伝では「施餓鬼・甘露門（意義と功徳・発生の仕組）」という演題で、冒頭、法要がもたらす功徳を檀信徒に信じていただく為には、そもそも僧侶が宗教文学的感性を養い、法要の意義功徳を感じ取らなければならないというお示しから始まりました。僧侶自身の感性の修養を前提とした上で、それを力強く後押ししていただいているかのように、講伝の内容は施餓鬼供養の成り立ちから今日に至るまでの儀式作法の変遷について、また曹洞宗門における面山甘露門法の構成や陀羅尼の意味に至るまで、微に入り細を穿ちご教示をいただきました。

二日目は会場をホテルニュー水戸屋様に移し、高福寺住職武井全補老師の講伝では「禅問答と公案について」という演題で、従容録の第九則から第十一則までを、武井老師の解説を交えながらお話をいただきました。今回取り上げられた三問の公案について武井老師の見解をお示しされながらも、最後の答えは聴講している我々自身に委ねるという形式のお話は、まさに師僧と対峙して禅問答を行っているかのような感覚を呼び起こさせるものでした。

また一日目終了後に催された懇親会では、井上老師、武井老師を始めとした滴禅会会員の皆様と、宮曹青正会員とで宴席を囲ませていただき、昼間の講伝では聞けなかったような質問にも老師には快くお答えいただき、大変和やかな交流の場となりました。

今回ほんの一部ではありますが、故杉本俊龍老師から始まる滴禅会の諸老師方が緻密に研究・相伝されてきた知見を学べたことで、宗侶として新たな気付きを得ることが出来たのではないかと思います。

最後にこのような貴重な場を設けていただきました関係各位、ご参加いただきました会員の皆様に心より感謝申し上げ、ご報告とさせていただきます。皆様、誠にありがとうございました。

（研修副委員長　阿部真龍）

武井全補老師

井上義臣老師

令和六年度移動研修報告

コロナ禍もあり六年ぶりの開催となりましたが、令和七年三月五日より七日まで二十六名の会員と共に移動研修を行いました。行き先は鹿児島・熊本方面とし、本年、戦後八十年を迎えるにあたり戦争について改めて学び、そして考えることを目的として鹿児島の知覧特攻平和会館での研修、慰霊法要を中心に企画・開催しました。

初日、まさかの事態から移動研修は幕を開けました。出発前夜からの降雪、低温の影響により飛行機の離陸が大幅に遅れ大阪伊丹空港から鹿児島への乗り継ぎができず、次の便まで五時間以上待つことになりました。時間的に当日予定していた特攻平和会館へは向かえずその日は直接宿へ向かうことになりました。二日目は予定を変更し午前中に知覧特攻平和会館へ。午後から永平寺鹿児島出張所である紹隆寺様へ拝登しました。

主たる目的である特攻平和会館では特攻隊に関する資料や隊員の遺書、関係者の手記などを各々見学し、語り部の方から当時の写真などをもとにお話いただきました。特攻隊の平均年齢は二十一歳。その多くは少年兵であり最年少は十七歳の少年だったそうです。絶筆となる遺書に多く書かれていたのは両親、特に母親に対する思いをつづったもので、先立つ不孝を詫びつつ家族の健康を案じ、立派な戦果を約束する内容でした。また、印象的だったのは遺書だけではなく、学徒動員により特攻隊員の身の回りのお世話に勤めていた女学生の手記の中の一文です。「不安な私たちを励ましてくれた兄さまたち。飛び立つ日、顔で笑って心で泣いて送りました」とありました。限られた時間の中でほんの一部の資料やお話しか見聞きできませんでしたが、当時終戦間際の極限の状況の中、一人一人に様々なエピソードがあり、その一端に想いを寄せ想像しただけで胸が締め付けられ涙を禁じ得ませんでした。最後には敷地内の観音堂に於いて戦死者の慰霊法要を行うと共に恒久平和を祈念いたしました。その後、紹隆寺様へ上山し拝登諷経を行い、監寺老師よりお話と山内の説明をしていただきました。

最終日は無数の羅漢像や宮本武蔵所縁のお寺として有名な雲巌寺様、平成二十八年に起きた熊本地震から復興しつつある熊本城、そして太宰府天満宮を巡り帰路につきました。初日こそトラブルに見舞われ大幅なスケジュール変更が余儀なくされましたが、参加者皆様のご理解ご協力のおかげで当初予定していた行き先を全て訪れることができ、事故や体調を崩す方も無く無事に移動研修を終えることが出来ました。

目的の一つである会員相互の懇親も共にトラブルを乗り越えることでより深まり、現地で多くのことを学び感じることができた意義のある移動研修となりました。

最後に、移動研修を開催するにあたって、ご協力いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。

（研修委員長　岩井太秀）

知覧特攻平和会館にて

紹隆寺様にて

雲巌寺様にて

青年会員をたずねて④
～様々な活動をされているご寺院様の紹介～

仙台市泉区　満興寺

―今期は「青年会員をたずねて」と題してお寺以外の活動をしている方を取り上げています。その理由としては、コロナ禍中に自坊に戻られた新しい会員に、お寺とは檀務のみならず色んなものに興味を持って人を集めるようなことをしていくことも大事だということを伝えるためです。

今回は仙台市泉区満興寺副住職　時泰広師にお話しを伺います。特に、KAMURIコミュニティプロジェクトで開催しているコメフェスというものが素晴らしいです。元々あったものですか。

いえ、元々は市民センターの企画で、地域の若い人たちを集めて地域を盛り上げようというものでした。そこに私や地域の方が数名集まって、ジャズアレンジした村民歌の復刻や竹を伐採したものが不要になっていたので、それをなんとか活かそうと思い、竹クラフトとしてお皿やおはしを作りました。さらに、企画を考えている中で、お寺でヨガをやろうという話になって、特別に調合していただいたアロマを焚きながら、ヨガや坐禅を満興寺で行いました。準備の時の茶話会の際に、地域のお米を生かしたイベントをやりたいということになりました。それで、市民センターとは別にKAMURIコミュニティプロジェクトという任意団体を立ち上げることになりましたが、コメフェスを開催するにはどうしても資金が足りませんでした。お金を貯めて一・二年後に開催する予定でしたが、その年に仙台市泉区の助成金にチャレンジしたら支給していただけることになり、半年後に開催しなければならない状況になりました。そこからは多くの会議や準備を経て開催となりました。一回目の開催は三年前の十月でした。

―年に一度開催しているコメフェスの具体的な内容はどういったものですか。

コメフェスの内容は使用するお米は地元地域産のものという決まりごとがあります。まず炊きたての新米を食べていただきたいという思いがありましたので来場者に振る舞いました。その際に、デモンストレーションとして、今現在ほとんど使われていないもみを燃料にして炊飯するもみ釜というものを使用しました。一回目の開催では、お米のつかみ取りや米粉を使用したクロワッサン・カヌレを販売。また、生米を樹脂に入れたアクセサリーの販売を行いました。さらに玄米茶やお米のビールも作っていただきました。その他にも沢山のブースがありましたのでお米に関するものを全て集めたといっても過言ではないと思っています。

―KAMURIコミュニティプロジェクトの会長という立場でありますが、運営はどのように行っていますか。

会長という立場ではありますが、他のメンバーが優秀なのです。全員で九名いますが、基本的にコメフェスの打ち合わせは四名ほどで行っていました。当日は、学生ボランティアや地域の方にも手伝っていただいて五十名ほどのスタッフで運営しています。

―宮城テレビで放送されたコメフェスの様子も拝見しましたが、多くの方々が笑顔で楽しんでいました。回を重ねるごとに感じたことはありますか。

まず、一回目の時は本当に試行錯誤しながらの開催でした。広報はインスタ等しかしてなかったので百人程度の来場者を見込んでいましたが、およそ千人の来場者になりました。まだアルコール消毒や検温、マスクを徹底しなければならない頃だったので、受付でチェックした人にはリストバンドをしていただくというシステムにしましたが、最後の方は数が足りなくなってしまいました。また、農家の方々から「こういうイベントをやるのは良いけれども、農家のことも少し考えて」と言われました。高齢化が進んでお米をアピールして売ろうとしてもお米を作る担い手が減少していましたので、二回目からは少しずつ農家の方々にも還元できるような仕組み作りも考えました。毎年、地元の小学校の子供たちが田んぼでもち米を作っていたので、オリジナルの袋やパッケージを作成し、実際に一緒に販売してもらうということから始め、三回目は、コメフェスと農協祭の併催というかたちで開催しました。今年は一般社団法人を立ち上げようと動いています。

―最後に、コメフェス以外にも様々なイベントに参加していますが、今後の目標をお聞かせ下さい。

まずお米や地域のことを知ってもらいたいという思いがあります。そして、お米作りにも興味を持っていただいて、少しでもお米作りの担い手が増えることを願っています。

KAMURI
コミュニティ
プロジェクトの
Instagram→

令和六年度会員大会報告

令和七年二月十日(月)、令和六年度会員大会を開催しました。

会員大会第一部では、青森県普賢院院代菊池雄大師を講師に迎え「曹洞宗寺院と宿坊の相性の良さ」と題しご講演をいただきました。講師先生ご自身の体験談を基にしたお話ばかりで非常に興味を惹かれました。その中でも、檀家減少・宗教離れの問題を抱える現状、百年後も続くお寺の条件を考え、三百ページもの企画書を作成しお師匠様にプレゼンをしたというお話に特に衝撃を受けました。単純に宿坊を経営するだけではなくその裏には、廃寺寸前だったお寺を再興し今後の発展を見据え、更には地域社会への還元、お寺のあり方などよく考えた上での宿坊経営という選択をされたことは我々宗侶だけではなく、参加いただいた特別会員の皆様にも通ずる所があったと思います。参加者全員がそれぞれに気付きのあった実りある講演会になりました。講師先生、ご参加の皆様に感謝申し上げご報告と致します。

(事務局長　都築達明)

第二部ボウリング大会では、主にレーンごとのチーム戦を行い、会員相互が協力しながら優勝を目指しました。和やかな雰囲気の中でも、各所で良い勝負が繰り広げられ、会場内は活気や熱気に包まれました。

第三部懇親会は、第二部の表彰式とビンゴ大会を併催いたしました。ビンゴ大会では、第二部の講師である菊池先生が自ら経営する宿坊の優待宿泊券をご持参いただき、豪華な景品にその場も盛り上がりました。会員皆さまが、同行同修のスローガンのもと、同じ時間を共有したことで、親睦も更に深まりました。

令和六年度会員大会を盛会裡に終えることができましたことをご報告申し上げます。今期二年間関係各位、会員の皆さまには、大変お世話になり、誠にありがとうございました。

(交流事業委員長　三田村孝成)

第四十九回曹洞宗東北地方集会「山形大会」

令和六年十一月十九日(火)、ホテルメトロポリタン山形を会場に、第四十九回曹洞宗青年会東北地方集会「山形大会」が開催されました。今大会は「衆縁和合～人とのつながり～」というテーマのもと、東北各地より大勢の青年僧侶が参集し、当会からは二十六名が参加しました。大会副会長である当会会長の開式の辞より祈念式典が始まり、次期開催県へ絡子の伝達を行い、記念式典が閉式されました。

記念式典後、山形テルサホールに会場を移し、記念事業として津軽三味線演奏家上妻宏光氏による三味線演奏が行われました。チケットは一般発売もされており、盛況でホールはほぼ満席でした。伝統的な曲に留まらず、ピアニストであり作曲・編曲家でもある伊賀拓郎氏と共にクラシックからポップスまで幅広いジャンルの楽曲を演奏し、即興も織り交ぜながら会場を魅了しました。なお、来年度は第五十回という節目の大会を福島県で開催予定です。

宮曹青主管　カンボジア教育支援活動
サンタピアップみやぎボランティア会

各イベント等での活動（サンタピアップブース設置）

各会場にて活動紹介・カンボジアパネル展示・クラフト販売・募金活動・写経体験などを実施させていただきました。

◆**福島　禅縁日**
○令和六年九月二十九日
○於　磐梯町　慧日寺

◆**梅花流宮城県奉詠大会**
○令和六年十月九日
○於　石巻市　マルホンまきあーとテラス

◆**ふうどばんく東北AGAIN主催　みんなのマルシェ**
○令和六年十月二十日
○於　仙台市　ブランチ仙台

◆**法燈和む会**
○令和六年十一月十日
○於　登米市　大慈寺

◆**オータムフェア**
○令和六年十一月十七日
○於　村田町　メモリアルホール桜

◆**曹洞宗青年会東北地方集会　山形大会**
○令和六年十一月十九日
○於　山形市　山形テルサ

「カンボジアフェア in SELVA」開催報告

●日時：令和六年十二月九日～十日
●会場：仙台市泉区中央「SELVA」二階センターコート
●来場者：約八十名（二日間延べ）
●スタッフ：三十三名（二日間延べ）

▼クラフト販売　売上合計　五二，九〇五円
▼募金　募金合計　六七，八〇〇円
▼写経販売　六〇〇円　ハガキ提供　三〇〇枚

「カンボジアフェア in 藤崎」開催報告

●日時：令和七年三月十四日
●会場：仙台市青葉区一番町「藤崎」街頭アーケード内
●来場者：約五十名
●スタッフ：十八名

▼クラフト販売　売上合計　三一，四一〇円
▼募金　募金合計　二七，一八二円
▼写経販売　三百円

※SELVA様、藤崎様でのフェアでは、ご来場の方にはホシヤマ珈琲店様提供の美味しい珈琲を飲みながら、小学校贈呈式の様子などの映像もご覧いただきました。また、SELVA様では写経体験も開催いたしました。

「ハガキリサイクルキャンペーン」中間報告

この一年間で、皆様に収集いただいた書き損じハガキと切手の集計作業を行いました。二月十七日現在、事務局まで届いているハガキ・切手を集計した数となります。

全国の御支援者様より沢山のご提供をいただきました。誠にありがとうございます。

「集計作業」
●日時：令和七年二月十七日
●会場：サンタピアップ事務局
●参加：二〇名

「集計結果」
書き損じハガキ　合計六，九一七枚
切手　額面換算　合計四一五，一一九円

皆様からお寄せいただいた書き損じハガキや切手は、新しいハガキや切手に変えて県内御寺院様や団体企業様にご購入いただき、その売り上げをカンボジア教育支援の為、活用させていただいております。

オリジナル卓上カレンダー 2025販売報告

今年度もオリジナルカレンダーを作成・販売いたしました。

お陰様でたくさんのご注文をいただき、各事業収益と共に教育支援費として活用させていただきます。

「カレンダー販売数」
三，〇〇〇部（一部　三〇〇円）
売上合計　九〇〇、〇〇〇円

■書き損じハガキの送り先
〒981-0944
仙台市青葉区
子平町3-23
仙台子平町郵便局留
「サンタピアップ」宛

■支援金の送り先
郵便振替口座
名義　サンタピアップみやぎ
ボランティア会
口座番号　02290-6-
48744

■サンタピアップ事務局
〒981-0933
仙台市青葉区柏木3-7-40
江巖寺内
TEL：080（3144）
3020（専用）
FAX：022（276）7426
E-mail：info@santapi.com
ホームページ：
https://www.santapi.com/

サンタピアップ
みやぎボランティア会

令和六年度第二十八期年次総会

令和六年十二月二十三日（月）午後四時半より、仙台中央斎場清月記に於いて「令和六年度第二十八期年次総会」が開催されました。年次総会は、来期第二十九期宮城県曹洞宗青年会会長および副会長・監事の人事案を審議するために行います。事務局より定足数が確認され、正会員百七十五名の内、計百十二名（正会員五十一名参加（リモート含む）、委任状六十一通）、総会の成立が報告されました。

議長には第三教区　玉川寺　村上孝宗師が選出されました。議長進行のもと、先般理事会において承認された「第二十九期三役人事案」について千田会長より第二十九期会長を第四教区　高林寺　牧野隆信師とする案が上程され、審議の結果、承認されました。その後、牧野師より副会長三名と監事三名の人事案が上程され、同じく審議の結果、承認されました。

第二十九期宮城県曹洞宗青年会三役

会　長　牧野　隆信　師　高林寺（四教区）

副会長　我妻　俊道　師　江巖寺（二教区）

〃　三宅　大哲　師　照源寺（十三教区）

〃　佐藤　泰澄　師　松岩寺（十八教区）

監　事　都築　達明　師　鉤取寺（一教区）

〃　佐藤　邦彦　師　龍雲寺（五教区）

〃　小石川一幸　師　安養寺（二十一教区）

今後の予定

◎宮城県曹洞宗青年会
・四月十七日（木）　令和七年度定例総会・合同委員会　ホテルニュー水戸屋

◎全日本仏教青年会
・六月　五日（木）　ソフトボール大会　仙台市海岸公園野球場
・五月二十六日（月）　仏法興隆花まつり千僧法要　奈良県東大寺

◎全国曹洞宗青年会
・五月二十九（木）～三十日（金）　定期総会・中央研修会　大本山總持寺

編集後記

一年前、より多くの方に宮曹青の活動を周知し、さらには仏教というものを身近に感じていただきたいという会長の思いから、公式インスタグラム・フェイスブックを開設し、皆さまに親しんでいただけるよう創意工夫しながら更新してまいりました。ご協力いただいた皆さまのおかげで無事任期を終え、次期へとバトンを渡したいと思います。最後に、お力添えいただいた多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

（広報編集委員長　佐藤邦彦）

MIYASOU.28
宮曹青インスタ

表紙写真　東日本大震災
慰霊行脚の様子

無聖 第90号（令和7年3月31日発行）

表紙題字　宗務所長 伊藤守弘 老師
編　　集　宮城県曹洞宗青年会
発 行 人　千田祥幹
事 務 局　宮城県仙台市太白区
鉤取4-1-21 鉤取寺内
T E L　090-2849-3830（専用）
F A X　022-243-1832
U R L　http://miya-sousei.com
E-mail　info@miya-sousei.com

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています。
ホームページはこちら 宮曹青 検索